

コレクション 番号	属名	形容語 (種ランク以下の学名)	品種名	属の日本語表記	品種名読み (日本語で表記される場合のみ、国際 栽培植物命名規約に従い、修正ヘボン	植物名の日本語表記	特性情報	備考 (公開を希望しない ときは列を灰色に塗	導入元・採取地	所在地 (公開を希望しないときは列を 灰色に塗りつぶす)	写真ファイル名 (非公開)
0001	Acer	pycnanthum		カエデ		ハナノキ	ムクロジ科の落葉高木。長野、愛知、岐阜に分布する。紅葉が美しい。当園のものは樹高約30メートルで国内最大級の個体。		1929年(昭和4年)、三井同族会から寄贈、植栽されたと考えられる。	京都府立植物園	
0002	Ailanthus	altissima		ニワウルシ		ニワウルシ	ニガキ科の落葉高木。中国原産で明治初期に渡来。種子は扁平形で翼があり、風で四方へ飛び散ることで繁殖する。	2個体	1938年(昭和13年)、ドレスデン植物園(ドイツ)から種子で導入。	京都府立植物園	
0003	Camptotheca	acuminata		カンレンボク		カンレンボク	ミズキ科の落葉高木。中国雲南省原産。中国では子孫繁栄につながる縁起の良い木とされキジュ(喜樹)の別名がある。		1937年(昭和12年)、中国南京総理陵植物園から種子を日本初導入。	京都府立植物園	
0004	Catalpa	bignonioides		キササゲ		アメリカキササゲ	ノウゼンカズラ科の落葉高木。北アメリカ南東部原産で明治期に新宿御苑に導入されたものが最初。現在の当園「けやき並木」は当初はアメリカキササゲの並木であった。		導入元は不明。1916年(大正5年)頃に植栽。	京都府立植物園	
0005	Catalpa	bungei		キササゲ		トウキササゲ	ノウゼンカズラ科の落葉高木。中国北部原産。同属のアメリカキササゲやキササゲに似るが、花は白色で紅紫色の斑点が多い。		1926年(大正15年)に導入したとされるが、導入元は不明。1938年(昭和13年)3月に植栽。	京都府立植物園	
0006	Cedrus	deodara		ヒマラヤスギ		ヒマラヤスギ	マツ科の常緑高木。ヒマラヤ〜アフガニスタン原産。当園梅林東の4本の個体からの採集種子を全国に配布した実績がある。日本へは1879年(明治12年)、横浜港に初めて渡来したといわれる。	9個体	1917年(大正6年)、導入元は不明。	京都府立植物園	
0007	Cerasus	itosakura f. itosakura		サクラ		イトザクラ	バラ科の落葉高木。エドヒガンの枝垂れ性品種。園内最大のサクラで樹高約18m。先代の「祇園枝垂れ」から、第十五代佐野藤右衛門により実生育成された個体。	当園ではオオシダレザクラと表記	1964年(昭和39年)、第十五代佐野藤右衛門氏から導入、植栽。	京都府立植物園	
0008	Cercidiphyllum	japonicum		カツラ		カツラ	カツラ科の落葉高木。日本、中国、朝鮮半島に分布。葉から香りが出ること意味する「香出(かづ)る」が名の由来とされ、落葉期に甘いカラメルに似たマルトールという成分を揮発する。		導入元は不明。1920年(大正9年)に植栽。	京都府立植物園	
0009	Cinnamomum	camphora		クスノキ		クスノキ	クスノキ科の常緑高木。国内では主に関東以西の太平洋側に分布。当園創設時に植栽された約200mの並木道のもの。川端康成の小説『古都』に「京都植物園のくすのき並木」と何度も登場し、映画化時にはロケ地にもなった。	55個体	導入元は不明。1924年(大正13年)の当園創設時に植栽。	京都府立植物園	
0010	Cornus	florida		ミズキ		アメリカヤマボウシ	ミズキ科の落葉小高木。北アメリカ東部原産。1912年(明治45年)に東京市長尾崎行雄がワシントンへサクラを贈った返礼として渡来した。	当園ではハナミズキと表記、5個体	1915年(大正4年)、アメリカ(ワシントン)からの返礼植物。	京都府立植物園	
0011	Dalbergia	hupeana		ツルサイカチ		ダルベルギア・フーベアーナ	マメ科の落葉高木。中国原産。葉の展開が5月中旬頃と、最も遅い落葉樹。当園では年ごとに開花むらがあり、時折大量開花がみられる。中国名は黄檀(こうたん)。		1935年(昭和10年)、中国南京植物園から種子交換で導入。1938年(昭和13年)3月に植栽。	京都府立植物園	
0012	Diospyros	rhombifolia		カキノキ		ツクバネガキ	カキノキ科の落葉低木。中国東部原産。雌雄異株。果実は小さく可愛らしいため、盆栽としてよく栽培される。	当園ではロウヤガキと表記	昭和の初期、当時の菊池園長が中国から日本初導入。	京都府立植物園	
0013	Ehretia	dicksonii		チシャノキ		マルバチシャノキ	ムラサキ科の落葉小高木。日本、中国原産。1937年(昭和12年)、パリ自然科学博物館付属植物園から種子を導入。当園では1940年(昭和15年)12月17日に初植栽。		初植栽品の後代と考えられるが、詳細は不明。	京都府立植物園	
0014	Eucommia	ulmoides		トチュウ		トチュウ	トチュウ科、一属一種の落葉高木。中国原産。国内最古クラスの個体。植物体にはグッタヘルカを含有するため、葉などを切断すると白く糸を引く。		1935年(昭和10年)、種子交換で導入。	京都府立植物園	
0015	Gleditsia	sinensis		サイカチ		シナサイカチ	マメ科の落葉高木。中国原産。幹に刺が出るなど同属のサイカチに似るが、花には柄があり、果実はねじれない。	当園ではトウサイカチと表記	1937年(昭和12年)頃、種子交換で導入。	京都府立植物園	
0016	Hamamelis	mollis		マンサク		シナマンサク	マンサク科の落葉低木。中国原産。日本のマンサクに似るが、葉の基部が心形で、花が大きく早く咲く。		1936年(昭和11年)、中国廬山植物園から種子交換で日本初導入。1941年(昭和16年)2月8日に植栽。	京都府立植物園	
0017	Juniperus	chinensis	'Kaizuka'	ネズミサシ		カイツカイブキ	ヒノキ科の常緑高木。イブキの栽培品種。当園では職員伝統の剪定技法による特殊樹形を継承している。	32個体	導入元は不明。1924年(大正13年)の当園創設時に、樹齢約30年の個体を植栽。	京都府立植物園	
0018	Keteleeria	davidiana var. formosana		ユサン		タイワンユサン	マツ科の常緑高木。台湾原産。枝が水平方向に張りだし、傘状の樹姿となる。10個体導入されたうちの残った2本。	2個体。当園ではシマモミと表記	1935年(昭和10年)、12月に台北林業試験場から小苗で10個体を導入。1942年(昭和17年)12月に植栽の記録あり。	京都府立植物園	
0019	Lagerstroemia	x amabilis		サルスベリ		コサルスベリ	ミソハギ科の落葉小高木。サルスベリと中国中部、台湾及び奄美諸島などに自生するシマサルスベリの交雑種。		昭和30年代後半(1960年ごろ)、大阪市立大学理学部附属植物園から導入。	京都府立植物園	
0020	Liquidambar	formosana		フウ		フウ	フウ科の落葉高木。台湾・中国東南部原産。3裂する葉は秋に美しく紅葉する。当園のものは国内最大級の個体で樹高約25m。		当園創設時1924年(大正13年)にはあったと伝わる。	京都府立植物園	
0021	Litsea	coreana		ハマビワ		カゴノキ	クスノキ科の常緑高木。国内では関東・北陸以西に分布。樹皮がはがれ斑になる幹が特徴的。当園のものは山城盆地の原植生の名残として重要な個体。1934年(昭和9年)、室戸台風の被害で倒木したが当時の菊池園長が最重要個体として真っ先に復旧を命じた逸話が残る。		元々の自生個体。	京都府立植物園	
0022	Loropetalum	chinense		トキワマンサク		トキワマンサク	マンサク科、1属1種の常緑小高木。中国南部と静岡、三重伊勢神宮、熊本に隔離分布。4~5月に枝先に白色の花が集まって咲く。当園のものは樹齢100年以上で枝垂れる枝ぶりが見事。		昭和初期、京都大学理学部植物園から導入。	京都府立植物園	
0023	Maclura	pomifera		ハリグワ		アメリカハリグワ	クワ科の落葉高木。北アメリカ中南部原産。枝には鋭いトゲがあり、ソフトボールほどの大きな実が特徴的。		1926年(大正15年)、アメリカから日本初導入。	京都府立植物園	
0024	Magnolia	grandiflora		モクレン		タイサンボク	モクレン科の常緑高木。北アメリカ原産。初夏に大きな白い花が咲く。日本に渡来したのは明治時代初期(1870年ごろ)で、新宿御苑に植えられたのが始まりとされる。		戦前に植栽されたものだが、導入詳細は不明。	京都府立植物園	
0025	Metasequoia	glyptostroboides		メタセコイア		メタセコイア	ヒノキ科の落葉高木。中国原産。1945年に生きた化石として発見され、その後アメリカで増殖されたものが1950年(昭和25年)に苗木として日本へ導入されたが、当園のものはその一部。	12個体	1953年(昭和28年)、京都大学上賀茂演習林から苗木を導入。	京都府立植物園	
0026	Photinia	davidiana		ニイタカカマツカ		ニイタカカマツカ	バラ科の常緑低木。中国中西部原産。果実は赤く熟し、中国ではこれを觀賞するために栽培される。中国名では紅葉樹(玉山假沙梨 柳葉紅葉樹)。		1926年(明治45年)、台湾から日本初導入。	京都府立植物園	

0027	Photinia	serratifolia		カナメモチ	オオカナメモチ	バラ科の常緑高木。中国、日本南部原産。カナメモチよりも花序が大型で、葉も大きく刺状の細かい鋸歯がある。1937年（昭和12年）6月18日、貞明皇后の行幸を記念して植樹された。		1935年（昭和10年）南京総理陵植物園から種子で導入。1937年（昭和12年）6月18日、植栽。	京都府立植物園
0028	Picea	polita		トウヒ	ハリモミ	マツ科の常緑高木。本州、四国、九州に分布。球果はトウヒ属の中で最も大きい。下枝が張った円錐形の樹形は見事で、秋には熟した球果を目の高さで見られる。	当園ではバラモミと表記	戦後に、武田薬品工業京都薬用植物園から導入。	京都府立植物園
0029	Pinus	parviflora		マツ	ゴヨウマツ	マツ科の常緑高木。日本特産で北海道～九州に分布。当園のものは国内最大級の個体で樹高は約20 m。	2個体	1924年（大正13年）の当園創設時に植栽。	京都府立植物園
0030	Pistacia	chinensis		ランシンボク	ランシンボク	ウルシ科の落葉高木。中国・台湾原産。学問の聖木として各地の孔子廟にも植えられており、カイノキの別名がある。雌雄異株で、当園のものは3本のうち1株は雌。	3個体	1965年（昭和40年）、日本最古の武家文庫とされる金沢文庫（神奈川県）から苗木を導入。	京都府立植物園
0031	Platyspron	platycarpum		フジキ	フジキ	マメ科の落葉高木。日本（福島県以南）、中国に分布。初夏に白い花が咲く。京都府では準絶滅危惧種。当園のものは山城原野の原植生の名残とされる貴重な個体で、国内最大級（樹高約25m）。		元々の自生個体。	京都府立植物園
0032	Pseudolarix	amabilis		イヌカラマツ	イヌカラマツ	マツ科の落葉高木。中国中国東部及び南部原産。カラマツとは別属で球果は枝上で分解する。当園のものは結実するが、実がつく個体は国内では珍しい。	3個体	導入元は不明。1972年（昭和47年）、京都園芸倶楽部創立50周年記念により植樹。	京都府立植物園
0033	Sequoia	sempervirens		セコイア	セコイア	マツ科の常緑高木。北アメリカ原産。約40メートルと園内の樹高を誇る園のランドマークであったが、2023年（令和5年）の台風により上部1/3が折れ失われた。		1962年（昭和37年）、京都大学上賀茂演習林から導入、植栽。	京都府立植物園
0034	Styphnolobium	japonicum f. pendulum		エンジュ	シダレエンジュ	マメ科の落葉低木。中国原産のエンジュの枝垂れ性品種で、落葉後の枝ぶりは龍が爪を立てた姿に見える。当園のものは園を象徴する貴重個体群で、当時の原木も森のカフェ裏に残る。	12個体	1934年（昭和9年）、当園の菊池園長が中国から枝を導入し、エンジュに高接ぎして増殖。国内初導入。	京都府立植物園
0035	Taxodium	distichum		ヌマスギ	ヌマスギ	ヒノキ科の落葉高木。北米東南部～メキシコ原産。棒状の気根が特徴的で、当園では高さ50cmに及ぶ。秋の紅葉は美しい。		1935年（昭和10年）9月、京都大学高槻農場から導入。1942年（昭和17年）2月21日に植栽。	京都府立植物園
0036	Ulmus	parvifolia		ニレ	アキニレ	ニレ科の落葉高木。国内では西日本に分布。ハルニレは春に開花、結実するが、本種は秋に開花、結実する。当園のものは賀茂川畔の原植生の名残とされる貴重な個体で樹齢約300年と推定される。		元々の自生個体。	京都府立植物園
0037	Ulmus	pumila		ニレ	ノニレ	ニレ科の落葉高木。シベリア東部から中国、モンゴル、朝鮮に分布。ハルニレによく似ているが、樹皮が荒々しく葉が小さい。国内では稀な樹種。		不詳	京都府立植物園
0038	Zelkova	serrata		ケヤキ	ケヤキ	ニレ科の落葉高木。日本、中国、朝鮮半島に分布。52個体からなる約250mの並木は、非日常的な空間へいざなう歴史が感じられる、植物園の象徴的な存在。	52個体	三井同族会からの寄贈により導入。1939年（昭和14年）に下鴨三井別邸から移植。	京都府立植物園